

第5回日本の次世代リーダー養成塾

報 告 書

【開催日程】

2008年7月28日～8月10日

2008年10月



Japan Future Leaders School

日本の次世代リーダー養成塾

目 次

ページ

1 . 第 5 回日本の次世代リーダー養成塾を開催して . . .	1
2 . 開催概要	3
3 . 講師・講義内容一覧	4
4 . カリキュラム	6
5 . 塾期間における成果や今後の課題	7

【資料】

1 . 塾生アンケート調査結果	25
2 . 受講者概要	39
3 . 受講者高校一覧	40
4 . クラス担任・補助員及びスタッフ名簿	41
5 . ご協賛いただいた皆様とご協力いただいた皆様 . . .	43

1. 第5回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

日本の次世代リーダー養成塾は、今年5回目の節目を迎えることができました。ここまで来られたのも各地方自治体、協賛企業、講師の皆様、各施設や個人として応援していただいたすべての皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

卒塾生は、800人を超え、すでに念願の就職をした卒塾生もいます。大半は今、大学生として、日本の大学だけでなく、米国、カナダ、英国、フィンランド、韓国などの大学に留学をした卒塾生も数多くいます。榊原英資塾長代理は毎年、講義の中で異質なものを受け入れることの大切さを教え、若いうちに海外に出て、自分を試すことを勧めています。外に出てみて、初めて、世界で生きていくことの厳しさを体験できるものだと思います。

また、卒塾生の中から、自然発生的に、各地域で、海岸の清掃をしたり、街の落書きを消したりという活動も始まっています。私は、卒塾式の時に必ず、リーダー塾の2週間はきっかけに過ぎないと述べてきました。リーダー塾後の学校や家庭、地域での生活の中でリーダー塾で学んだことを実践に移してほしいという思いからです。

今年も全国29都道府県と海外5カ国から160人の高校生が参加しました。5回目の節目ということもあり、原点に戻り、日本の歴史や文化を徹底的に学ぶ2週間としました。

海外から見た日本ということで、マレーシアのマハティール前首相、タイのタクシン元首相、シーファー駐日米国大使に講師としていらしていただきました。「太平洋戦争を早期に終結させるために原爆投下をしたのか」という塾生の質問に対し、シーファー大使は率直に答えていただき、また、マハティール氏は唯一の被爆国として21世紀、先頭に立って平和に貢献するのは日本の役割だと力説しました。米国とアジア、大国と小国の立場が鮮明に浮き彫りになった講義で、塾生は歴史の現実と将来のあるべき姿を垣間見ることができたように思います。

また、タクシン元首相は、この講義の後、北京を経由して実質的にロンドンに亡命しました。農村と都市の格差問題にチャレンジし、改革を急ぎすぎた帰結点として、自らが亡命を選択しなければいけなかった胸中を「改革を断行しないといけないが、急ぎすぎではいけない。このことは、私にも言えることだ」と語られました。

今年は従来講義を聞くことに加え、日本人としての感性を磨くことに挑戦しました。宗教学者の山折哲雄先生に宮沢賢治の世界を語っていただきました。その上で、毎朝「雨ニモマケズ」を音読し、2週間かけて暗記し朗読大会を開きました。文言を変えずに曲をつけたり、踊ったり、一人芝居をしたり、ありったけの感性を出して表現していました。

日本語のリズムとメロディーの美しさを体験するために、「雨ニモマケズ」のCDを発表されている福岡出身のシンガーソングライターの宇佐元恭一さんにライブをやっていただきました。また、毎年講師をお願いしている千住博先生に指導していただき、千住先生がプロデュースされているJR九州新博多駅の壁画の下絵にも全員挑戦しました。

毎年、問題になることですが、塾生の体力的・精神的な弱さが気になりました。集団生活の中で自分の感情をコントロールできずに、精神的に参ってしまう塾生が多く見られました。第1回目のリーダー塾で、初めて過呼吸症の塾生を目の当たりにして、どうしたらいいのかと迷いました。しかし、過呼吸症は今やそんなに特別のことではなく、いつ同級生がなってもいいようにと応急処置用のビニール袋を持っている高校生がいる実態にびっくりしてしまいます。

居眠りする塾生が多くて、どうしたら居眠りを解消できるかとスタッフが問うた時に「事務局にコーヒーを準備してほしい」という意見が出てこれも驚愕しました。自分から自省して「早く寝るように努力する」という返答が来ると期待していました。人にやってもらうことが当然という態度をいかに変えていくかということを2週間かけて徹底的に教育したつもりです。しかし、これは、2週間では身につくことではありません。今後の学校や家庭での教育に期待するしかありません。

先日、原宿の駅に「明治維新から140年」というポスターを見つけました。1868年という年号を見ると、ずっと昔のように感じますが、まだ、140年しか経っていないのだと不思議な気持ちになりました。刀を捨て、脱亜入欧、先進国を目指して日本は駆け抜けてきました。結果、携帯電話で世界中どこにでも通話ができ、コンビニに行けば、料理さえしなくてもいい便利な時代となりました。しかし、その便利さの中で、私たちが何百年もかけて培ってきた大事なことを置き去りにしてしまったような気がします。ものごとをじっくり考えて、自分の信じる道を切り拓き、実行していく。そして、自分のことはひとまず置いて、人のために尽くすという当たり前のことを、身体ごと忘れてしまっているのではないのでしょうか。

しかし、冒頭に申し上げたように、塾生から自発的なボランティア活動が生まれたり、東京では、将来の就職に向けた勉強会が実施されています。大きな夢を抱いて、今まで以上にチャレンジしてほしいと思います。大人の私たちの責務は、彼らを厳しく助言し、そして、優しく、崖の上から落としてやることです。

最後に、ひとつうれしいお知らせです。宗像の沖ノ島と関連遺産群が世界遺産国内最終暫定リスト入りを果たしました。沖ノ島からは、三角縁神獣鏡など8万点の国宝が出土しています。今後は、世界に向けてMUNAKATAを発信して世界遺産入りを目指します。そのような歴史・文化的な地でリーダー養成塾を続けられることは本当に幸せなことです。この塾が未永く続くように、事務局一同、努力していく所存です。どうか、今後ともご指導、よろしくお願ひ申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾事務局長・加藤暁子

2. 第5回日本の次世代リーダー養成塾 開催概要

1. 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：御手洗富士夫 / 社団法人日本経済団体連合会会長

2. 開催日程

2008年7月28日(月)～8月10日(日)

3. 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ(福岡県宗像市吉留46-1)

波戸岬少年自然の家(佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1)

4. 塾生

対象：高校生(1年生～3年生)

29都道府県、海外5カ国(アメリカ、カナダ、中国、アイルランド、スイス)

人数：160名

参画県(岩手・山形・神奈川・岐阜・和歌山・福岡・佐賀・大分県)
による推薦枠99名、全国からの一般公募枠61名

5. カリキュラム概要

- **教養系** (哲学、近現代経済・文明史、医学、情報、芸術など)
日本を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。
- **ビジネス系** (日本企業の活躍、ビジネスのしくみなど)
世界を相手に日夜活躍するビジネスの最先端の方々や、MBA教育の現場から、時代を背負う気概とロマンを伝えます。
- **国際系** (アジア要人との交流、国連やNGO活動への理解、国際問題など)
広く世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際的なバランスを保つ術を授けます。
- **人間学** (将来の夢をどう具現化するか、人生を成功させる秘訣など)
人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。
- **体験型実習**
インプロ・シンキング・ワークショップを通して、自分を高める自分力やリーダーとして重要なチームワーク力を養います。また、宗像市の田熊石畑遺跡の発掘を行い、からだを使って、歴史のロマンや面白さを体感します。塾の終盤には、千住博先生のご指導のもと、2011年春に開業予定の新しい博多駅のタイル画の下絵を制作します。
- **見学・鑑賞**
 - 佐賀県立名護屋城博物館見学
当時の貴重な資料や遺産を見学し、現在の日本と朝鮮半島間の課題の背景に何かあるのかを学びます。
 - 九州交響楽団「2008 青少年のための一万人コンサート」鑑賞

16人のクラス分け(10クラス)で、日本を代表する企業の中堅社員からなる異色のクラス担任が、各講義をきめ細かくフォローします。

3. 第5回日本の次世代リーダー養成塾 講師・講義内容一覧

講師 23名

(五十音順)

- 明石 康 / 元国連事務次長 「国際的な職場で働くということ」
- 麻生 渡 / 福岡県知事 「日本とアジア」
- 宇佐元 恭一 / シンガーソングライター 「『雨ニモマケズ』言葉から感じ取る心とイメージ」
- 笠谷 和比古 / 国際日本文化研究センター教授 「徳川時代の武士と武士道」
- 梶原 しげる / アナウンサー・東京成徳大学客員教授 「若者のコミュニケーション能力は落ちているのか」
- 金澤 一郎 / 宮内庁皇室医務主管・日本学会会議会長 「脳の不思議」
- 川勝 平太 / 静岡文化芸術大学学長 「美しい国の形 - 日本を考える - 」
- 榊原 英資 / 早稲田大学教授 「世界の中の日本」
- ジョン・トーマス・シーファー / 駐日米国大使 「When I sat where you sit today」
- 千住 博 / 日本画家・京都造形芸術大学学長 「芸術について」
- 竹内 弘高 / 一橋大学大学院国際企業戦略研究科長 「ビジネスのしくみ」
- タクシン・シナワット / 元タイ王国首相 「国民のためのリーダーになる条件」
- 沈 壽官 / 陶芸家・薩摩焼十五代 「陶房雑話」
- 徳川 恒孝 / 財団法人徳川記念財団理事長 「世界の中の日本文明」
- 古川 康 / 佐賀県知事 「21世紀のリーダーになるための7つの条件」
- マハティール・モハマド / 前マレーシア首相 「唯一の被爆国日本が世界の平和にどう貢献できるか」
- 三村 明夫 / 新日本製鐵株式会社 代表取締役会長 「鉄を通して見る日本製造業の強さについて」
- 室伏 きみ子 / お茶の水女子大学教授 「40億歳の生物たち - 自分自身を知るための生物学」
- 安田 喜憲 / 国際日本文化研究センター教授 「モアイとナマハゲはどちらが偉い？」
- 柳家 喬太郎 / 落語家 「落語入門」
- 山折 哲雄 / 宗教学者 「『デクノボー』になりたい」
- 李 鳳宇 / シネカノン代表取締役 「想像力と創造する力、映画において。」
- 加藤 暁子 / 日本の次世代リーダー養成塾事務局長 「アジアとどう向き合うのか。哲人宰相マハティールから学ぶ」

【見学・鑑賞】

佐賀県立名護屋城博物館見学、九州交響楽団「2008 青少年のための1万人コンサート」

鑑賞

【体験学習】

インプロシンキングワークショップ、宗像市田熊石畑遺跡発掘、野外活動（カッター活動、飯盒炊飯）、タイル画制作

第5回
日本の次世代リーダー養成塾
講師陣

(総勢23名 講義順)



麻生 渡



榊原 英資



山折 哲雄



徳川 恒孝



安田 喜憲



川勝 平太



明石 康



ジョン・トーマス・シーファー



タクシン・シナワット



古川 康



沈 壽官



金澤 一郎



三村 明夫



室伏 きみ子



竹内 弘高



マハティール・モハマド



加藤 暁子



李 鳳宇



笠谷 和比古



梶原 しげる



柳家 喬太郎



宇佐元 恭一



千住 博

4. 第5回日本の次世代リーダー養成塾 カリキュラム

塾長:御手洗 富士夫 塾長代理:榎原 英資

2008/7/31 現在

平成20年 月日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00		
7/28 (月)			掃除	朝食	講義1 質疑 応答	ディス カッション	昼食	講義2 質疑 応答	ディス カッション	講義3 質疑 応答	質疑 応答	質疑 応答	ふりかえり	夕食 19:40まで	フリータイム・入浴	入浴	就業 準備	就業		
7/29 (火)			掃除	朝食	榎原英資 (早稲田大学教授)	オリエンテーション	昼食	イノベーション ワークショップ	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション ワークショップ	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	就業 準備	就業		
7/30 (水)			掃除	朝食	山折晋雄 (宗教学者)	ディスカッション	昼食	徳川頼孝 (財)徳川記念財団 理事長)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	夕食	夕食	夕食	前半クラス担任企画	夕食	就業 準備	就業		
7/31 (木)			掃除	朝食	川崎平太 (静岡文化芸術大学 学長)	ディスカッション	昼食	明石 康 (元)運送事務次長)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	就業 準備	就業		
8/1 (金)	佐賀	荷物 移動	朝食	移動	ジョン・トーマス・ シーファー (駐日米国大使)	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備	
8/2 (土)	佐賀	朝の つと め	朝食	朝食	野外アクティビティ	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/3 (日)	佐賀	朝の つと め	朝食	退所 準備	次 藤賀 (藤藤純五代)	退所 式	昼食	移動	九州交響楽団 (青少年のための 1万人コンサート)	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/4 (月)	佐賀		掃除	朝食	金澤一郎 (西内庁産業医務主管 日本学術会議会長)	ディスカッション	昼食	三村剛夫 (新日本製鐵株式会社 代表取締役会長)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/5 (火)			掃除	朝食	竹内弘高 (一橋大学大学院 国際企業戦略 研究科長)	ディスカッション	昼食	加藤 暁子 (日本の次世 代) 代表 取締役副 会長)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/6 (水)			掃除	朝食	李 慶宇 (シネカノン 代表取締役)	ディスカッション	昼食	等谷和比古 (国際日本文化研究 センター教授)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/7 (木)			掃除	朝食	田嶋石雄博 塾長(作家)	移動	昼食	榎原しげる (アパレル 東京成徳大学 客員教授)	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	ディスカッション	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/8 (金)			掃除	朝食	胡 嘉 偉	移動	昼食	柳 敦 夫 (言語家)	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/9 (土)			掃除	朝食	千住 博 (京都造形芸術大学 学長)	移動	昼食	目黒直貴	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	就業 準備
8/10 (日)			掃除	朝食	荷物 移動	記念撮影 歓談	バスで帰路へ													就業 準備

5 . 塾期間における成果や今後の課題

第 5 回日本の次世代リーダー養成塾を終えて、塾生やクラス担任、クラス担任補助員へのアンケートを参考に塾の様子や感じたこと、成果や今後の課題をまとめた。

【塾生について】

(1) 概要

塾生は負担金をいただいている 8 県の参画県（岩手、山形、神奈川、岐阜、和歌山、福岡、佐賀、大分）推薦枠と、全国から選抜する一般枠の二種類からなる。参画県推薦枠・一般枠ともに、選考方法は一次の書類審査ならびに二次の面接審査で、これを通過したものが参加できる（方法が異なる参画県もある）。今年は参画県枠 99 名、一般枠 61 名のあわせて 160 名の塾生が 29 都道府県及び 5 カ国から高校生が参加した。

塾生を 16 名ずつの 10 クラスに分け、各クラスに日本を代表する企業の中堅社員などからなるクラス担任 1 名と、大学生や大学院生からなるクラス担任補助員 1 名をつけた。

(2) 成果・課題

<募集と選考について>

塾生の一般枠の募集については、年度当初に全国の高校と卒塾生に案内を送付し、加えて電話による営業活動を行った。そのかいもあって一般枠の応募は 100 件を超え、また都道府県別にみても 29 都道府県及び 5 カ国から高校生が参加するなど、全国から様々な参加者が集まった。

一方で課題は、応募者の少ない地域が偏っていた事である。開催地である福岡からの交通の便の問題もあるが、特に東北・北陸・中国・四国地方については、応募の絶対数がまだまだ少ないため営業活動を強化していきたい。

選考について、今年度の塾生は意欲の高い生徒とそうでない生徒との差が大きかった。学力が高いかどうかよりも学ぶ意欲や向上心が参加塾生として重要だと言える。このため二次面接の時点で、これまで以上に参加の意欲及び生活マナーの遵守についてしっかりと確認する必要があると考えている。

<塾期間中の塾生の様子>

講義の質疑応答の時間に、非常に質の高い質問をしていたのが印象的であった。毎講義ごとに質疑応答の時間を設けるが、毎回多数手が挙がる。こちらが指導したわけではないが、質問の仕方、自分の意見を冒頭で述べた上で質問を投げかける塾生が多く、大人でもなかなかできないことである。また、質問内容も鋭い切り口からの質問で、講師を困らせるほどであった。

その他の塾生全体の印象としては、残念ながら当初はネガティブな印象の方が多かった。例年そうであるが、時間厳守ができない、体調管理ができないなど基本的な生活習慣ができていない。基礎体力がないのと、寝不足など自己管理不足で体調を壊し、塾生アンケートの感想でも「体力的に辛かった」「きつかった」などのコメントが多く見られた。思考力については、自分で考えようとはせず、すぐに大人に聞いて正解を求めようとする。何か負

の事態が起きたときに、我が身を振り返る前に人のせいにしようとする傾向が非常に強い。また、理想や発想はとてもよいが、考えが非常に浅く、それを現実の行動に移せない。精神面では大変幼く、弱い。これらの傾向は、大人世代から見て世間一般で言われていることで、今の若者が豊かで便利な時代に生きているがゆえに起こる自然現象であると思う。解決策は、大人が強く意識して教えていくことだと考える。ここに、リーダー塾の使命があると再度認識した。

それと同時に家庭での過保護が原因と思われる傾向については、社会全体で改善していく必要があると考える。また塾生により参加意識の高低差が見られた。意識の低い塾生は、「親族から無理やり行かされた」と言及していた塾生が多く、意識の高い塾生の妨げになったこともあったようである。塾生の中でも上記の傾向に当てはまらない者は多数いるが、そのような塾生からは「できない人には厳しい罰則を設けてほしい」という声が多くあがった。基本的な生活習慣ができていない塾生とできていない塾生の差も非常に大きい。気付いた塾生がリーダーシップを執って、他の塾生に率先して呼びかけるという光景も殆ど見られなかった。このように、質疑応答などで見せる大人な部分と、基本的な生活習慣や精神面での子供な部分のギャップがとても大きいと感じた。

しかし、特に後半に目覚ましい成長が見られた。クラス担任が考えさせることに重きを置いてくださったおかげもあり、塾生の行動が能動的になっていった。ある日の講義で居眠りが非常に多かったため、事務局からこのままでよいのか、今後どうすればよいのかという問いを塾生に投げかけた。当初行った20分程度のディスカッションでは、9割以上が環境や事務局のせいにする意見だった。例えば、「会場のカーテンを開けて欲しい」「栄養ドリンクを配って欲しい」「眠気覚ましにおでこに貼る冷却シートが欲しい」などだ。最後の最後で、ようやく「自己管理を徹底すべき」などの意見が出始めた。一旦ディスカッションを打ち切り、夕方までに各自考えておくように伝えて解散した。

第2回目のディスカッションでは、物事の本質に気づいた学生から、「そもそも居眠りをするという考え自体意識が低い」、「なんのために塾に来ているのか」、「集中力を保つためにどのような工夫をしたらよいか」などの意見が多数出てきた。結局は、「自己管理を徹底し、自分達でできる工夫で講義に集中できる環境を作ろう」との意見でまとまった。最後に、今後も塾に参加する意志があるのかを塾生に確認して終了した。その後の受講態度には、目覚ましい改善が見られた。これは一例であるが、このような葛藤と成長を塾中に何度も繰り返すことによって、課題を発見し、改善する行動力が養われていったと考える。クラス担任が口々に述べていたのは、「打てば響く」という言葉である。

塾生アンケートで「塾に参加してよかったこと」は、半数を「全国に友達ができたこと」が占める。今年は参加動機の時点でも多かった。全国にネットワークができることも塾の大きな特徴であるが、昨今目的を履き違えている塾生が非常に多いと感じる。そのため、講義中の姿勢が消極的など、知識習得がおろそかになりがちである。今年は、講義は体調不良で欠席する者がいたが、イベントは、ほぼ全員出席であった。これは事務局の反省点でもあるが、イベントに頼ってクラスを活性化しようとする傾向が強いことも大きな原因である。イベントではなく課題解決のために一丸となり、その延長戦上に友情が芽生えるようなカリキュラムにしていきたい。また、全国から参加しているので、クラス単位にこだわらず、常に異なる人に接するような仕組みも検討の視野に入れたい。

(3) 参加しての感想

- 一生付き合っていける最高の仲間が出来た。
- 全国に、目的意識が高く辛いことも楽しいことも分かち合える友達が出来た。
- また、補助員としてリーダー塾に戻ってきたい。
- たくさんの友達が出来て、自分の将来についてもっと考えるようになった。
- 離れたくないと思える友達や補助員や先生に出会えた。
- 日本の歴史を学ぶことの大切さや夢を叶えるために今できることを学べて本当に良かった。
- 素晴らしい大人、各界のリーダーの話を聞いて良かった。
- 絶対興味が無いと思っていた学問が実は面白いと気づいた。
- 世界的に活躍している講師の先生の生の話を聞いた。
- いろんな人とディスカッションで意見を言い合い、交流を深めることができた。
- 講師の話聞いて自分の夢が少し具体的になり、ディスカッションでは自分の考えを深めることが出来た。
- 全国の仲間と意見交換し考察を深められて本当に良かった。
- 上を目指そうという高い志を持てた。
- 同世代とは思えない仲間の発言力や知識にプレッシャーを感じ、自分の今後の生活にやる気が出てきた。
- 環境の異なるいろんな場所から来ている友人と触れあい視野が広がった。
- ディスカッション力や話を聞く力、協調性が高まった。
- 自分の殻を意識し、破る努力を始めることができた。
- 多くの人に会い、自分の今まで見えなかった短所が見えてきた。
- 親と2週間離れた事も、いい経験になった。
- たった2週間の短い期間だったが、私にとってすごく大切な一生の思い出になった。
- もしここに来てなかったら、高校生活やその後の人生を無駄にしていたような気がする。
- 今までの人生の中で、一番濃い2週間で、一番楽しい2週間だった。

(4) 課題のまとめ

- 応募者数の少ない地域への募集活動の強化
- 面接時点で、応募者の参加意欲や日常生活マナーについて特に注意して確認する
- 塾参加前の家庭での事前指導を徹底してもらうよう呼びかける
- 基本的な生活習慣の改善をカリキュラムの初期の時点で徹底的に指導する
- 塾生が、友達作りに重点を置きすぎて学習・知的探求面がおろそかにならないように意識付けを行う
- 時間厳守など一般社会のルールに則った指導を厳しく行う
- 考えて行動に移さなければ進まないというような仕組みにする



入塾式での塾生代表宣言



麻生福岡県知事との夕食



インプロ研修



塾生とスタッフの大自己紹介大会



塾期間中は携帯電話を封印



チームビルディングでクラス
メイトの新たな一面を発見



世界を代表する
トップリーダーによる講義



講義後のディスカッション
に講師も参加



講師の前で演技を披露



160人の前での
目標宣言



夜のフリータイムを
使って交流



卒塾証書授与



また会おう！



【クラス担任】

(1) 概要

よりきめ細かな指導をするため、今年から塾生数は変えずに昨年より2クラス増やして、10クラス制(1クラス20名16名)にした。クラス担任には事前研修を行い、塾の基本方針や塾生概要、カリキュラムの説明、また過去のクラス担任経験者によるレクチャーなどを行った。また、担当するクラスの塾生の出願調書や作文も事前に渡して、より早く各塾生の特徴を捉えられるようにした。塾の前半、後半に塾の雰囲気を活発化させる企画を実施していただいた。また、毎日塾生から提出される1日のふりかえりシートにコメント記入し、塾生一人一人の成長を確認していただいた。

(2) 成果・課題

<クラス担任の役割>

塾生のアンケートを見ても、クラス担任の果たす役割はとても大きかった。主に前半と後半と2名のクラス担任で一クラスを担当するが、前半と後半では求められる指導力も少し違っていると感じた方が多い。前半は、塾生がまだ他人にどう見られているか強く意識するため、自分の本音を語りやすく、いかに自由に発言できる雰囲気作りをするかということに苦労されていたようである。後半は塾生の自我が出はじめ、クラスに馴染めない塾生や、体調を壊す塾生のケア、また生活の乱れを指導することに非常に苦労されていた。また、最終日に近づくにつれてディスカッションをどのように意義深いものにするかにも試行錯誤しておられた。しかし、ディスカッションは多数の塾生が、経験ゼロからスタートしたが、終盤はかなり活発な議論が行われていたようである。

一日のカリキュラムの最後に塾生が提出するふりかえりシートに、クラス担任のコメントを記入してもらったが、毎日3時間近く睡眠時間を削って記載された方もいた。内容は、多くのクラス担任が進路相談を受けていたようである。また、クラスの人間関係の悩みを打ち明ける塾生も少なくない。クラス担任が寝る間を惜しんで、一生懸命に書いてくれたという事実と、きめ細かなコメントの内容に塾生は大きな感動を受け、塾により積極的に参加する励みになったようである。クラス担任、塾生どちらともからコミュニケーションの促進ツールとして非常に良いので続けてもらいたいと好評であった。しかし、クラス担任によってはこのコメント記入でかなりの体力を消費し、その他の生活に支障をきたしていた方もいたので、このコメント記入が主役にならないようにする必要がある。

クラス担任アンケートで「塾生が担任に対して求めている役割は何であると感じたか?」という問いには、「相談相手」という回答が圧倒的に多かった。また、その次に多いのは「しきり役」「調整役」など。塾生の中からリーダーが自然発生的に出てきてクラスを盛り上げていくという発想ではなく、クラス担任にまずリーダーを指名してほしい、自分たちより平等に上の存在である大人に頼りたい、という塾生の姿が浮き彫りになった。クラス担任の注力の割合として、塾生のメンタル面・生活面のケアの負担が年々重くなってきている。そして、ディスカッション指導など知的分野での指導への体力的・精神的余裕がなくなってきたように感じる。この悪循環をどこかで断ち切らなければ、塾本来の目標が失われてしまう。来年は、基本的な生活習慣が身につけており、強い精神力、高い志と積

極性をもって参加していることを前提とした指導をしていただけるよう、事前・初期の塾生への指導を徹底したい。

< 社会人クラス担任の意義 >

今年初めてクラス担任の独自の企画を前半・後半で一度ずつ実施をお願いした。これは、せっかく社会人のクラス担任が参加しているのに、その仕事内容などを披露する場がないという昨年度までのご意見があったのと、事前のクラス担任同士のチームビルディングを行う目的をお願いした。事前研修でしか全員で顔合わせできないので、本番までにいかに協力体制ができていくかが、期間中の迅速な情報共有やチームワークにつながる。前半企画はクラス対抗ゲーム大会、後半企画は地域対抗のクイズ大会となった。前半はクラス内の壁を取り除くとてもよい機会になったし、後半は日本全国を意識させるようなチーム分けでクラスの壁を越えるよい機会になった。両方ともクラス担任の職業経験を活かした点数獲得方法やユーモアを交えた問題が出題され、大変盛り上がった。この企画のために特定の個人に負担がかかったので来年の実施は検討してほしいという意見も一部あったが、結果としては例年よりもクラス担任のチームワークがとれていたと考える。

また、クラス担任は常に会社が生き残るための様々な選択を迫られている環境で仕事をしている方ばかりなので、ディスカッションに関して、議論を表面的に終わらせない指導をしてくださり、塾生もディスカッションの本質的な醍醐味を十分に味わえたようである。

今年は今まで以上に多くの情報提供を行った。クラス担任から多く求められる事前情報は、実際のクラスの雰囲気や運営のテクニックなどであった。確かに高校生を教えたという経験をもつ方は殆どいないので、不安は十分に理解できる。しかし、クラスの雰囲気は、毎年そのクラスによって異なるので決まった法則はなく、逆にクラス運営はクラス担任の腕の見せ所であり、ご自身の個性を一番出していきたいと期待する部分である。よって、過度の情報提供は、クラスの均等化を招き、塾の面白みを軽減してしまう要因になると考える。事務局としてクラス担任には、自身の経験とアイデアでクラス運営を一任するスタンスをとっていきたい。

リーダー養成塾がクラス担任に求める役割としては、「生活指導」「クラス運営」「ディスカッション指導」が大きな3本柱である。どの点においても塾生に主導権を握らせながら、クラス担任自身には影のリーダーとしての指導力と経験力が求められる。主にディスカッションの指導に関しては、クラスで出てくるテーマや課題、能力も異なるため、その場その時の状況を瞬時に見極め、塾生に深く考えさせるスキルが必要とされる。そして生活全般では、塾生に迎合せず、それでいて一方的でなく、大人としての凄味を感じさせる存在である必要がある。1泊2日の研修だけでそのような総合的な力を養成してもらうことは非常に難しい。今後はこのような能力が必要とされることをクラス担任募集の時点で周知し、必要と思われる準備をある程度個人で進めていただくことをお願いする必要がある。事前準備の時点から相当のエネルギーが必要とされる仕事だけに、塾の趣旨を十分ご理解いただき、教育に対する情熱とボランティア精神が旺盛な方に今後もお願いしていきたい。

今年のクラス担任は、常に様々な提案を事務局に投げかけてくださることが非常に多く、事務局の今後の改善点を多く発見することができた。民間企業からの視点は非常に鋭く、

当塾のようにスタッフ数が少ない状況で効率的に運営するためのノウハウをたくさん学ばせていただいた。クラス担任の皆様には心から感謝したい。

(3) 参加しての感想

- 非常に有意義なプログラムです。プログラムに関わるすべての方々が、日本の若者育成に一方ならぬ熱意を持ち、それが結集して1つのパワーとなり、参加した塾生に素晴らしい体験を提供しています。
- 普段なかなか経験できない「感動」を味わえ、塾生同様に講師の方から「気づき」を得ることができました。反面、「リーダー塾」=「エリート塾」のように感じる部分もあり、特にカリキュラムの中に「リーダー像」について心に響くものが非常に少なかったと思いました。私が考えるリーダー感とは常にギャップを感じました。
- 学生時代をもう一度させてもらえた印象です。
- 高校生の良い点・悪い点の両面が自身を振り返る機会を与えてくれました。高校生の成長したいという情熱と実際に変化していく様子が、大人も変わらねばという勇気を与えてくれました。
- 自分自身の「こなす毎日」からの脱却の必要性を再認識できました。自分も忘れかけていた自分の夢に向かって努力を開始するきっかけとなりました。
- 「人の気持ちや想いを汲み取る」ことの大切さ・素晴らしさ・難しさを再認識できました。
- 他の担任や事務局のみなさんの考え方・生き方に触れることができ、主として同世代の方々が、それぞれのステージで活躍されていることを知ることができ、とても有益でした。
- 生徒たちに発する言葉一つ一つが自分への戒めとなりました。
- 常に問題意識を持って考え、行動することの大切さを改めて感じました。
- 最も規律あるところに自由があり、最も自由なところに規律がある、という精神が、リーダー塾にはぴったりだと思いますが、参加者全員が規律なき自由(=放任)と、「義務と権利」を履き違えていたと思います。そこで、自分自身のリーダーシップの無さや役割を全うできなかったことが不完全燃焼であり、残念であったことです。
- 塾生の純粋さ、熱意・意欲に触れ、非常に感動しました。
- タイトなスケジュールの中で、病気にならず無事に生徒を家まで帰らせることができ安堵しました。
- たったの一週間だけでしたが、期間中は疲れを感じる暇がないほどの濃厚なプログラムで、担任期間終了後は、寂しさや疲れで放心状態に陥りました。しかし、その後不思議と仕事に対するやる気が高まり、以前よりも積極的に楽しく業務に邁進できているような気が致します。
- 教育の難しさ(意識の向上、コミュニケーション、精神的な助言)や大人としての責任感の重要性(指導したことが自分自身できているか)などを感じました。

- 高校生の自発性を活かしながらチームビルディングを行うという経験ができたことや、異なる世代とのコミュニケーションを通じた自己反省ができたことはいずれも貴重な財産となりました。
- 日本の次世代以降までの継続的な将来について、当事者意識をもって認識しました。

(4) クラス独自の取り組み

クラス運営やフリータイムを使ったクラス独自の取り組みは以下の通り。クラスのルールづくりは過去の経験者の成功談をもとに、多くのクラスが設定したようであるが、塾生が自発的に決めたものでなければ、なかなか守れなかったという意見が多かった。

- クラスのルールづくり
- 個人面談
- 環境に関するビデオの上映
- 本の朗読
- ホスピタリティーマネジメント講座を実施
- 朝礼時に昨日の気づきと本日の抱負について各自が一分程度で話すことを実施
- 将来の夢について発表し、意見交換する場を設けた
- 他クラスも巻き込んだレクリエーションの企画
- 昼間は厳しく指導し、夜は基本的に塾生の自主性に任せるとメリハリをつけた
- 個人個人の良い特徴を伝え、経験談を話し、抱えている不満や疑問はなるべく吐き出させるように話を聞くことに努めた

(5) 課題のまとめ

- 募集時にクラス担任に求められるスキルの具体化・明確化を行う
- 募集時・事前研修に加え、塾の趣旨に関する説明を書類などで十分に行い、方法は異なっても、スタッフ全員が共通の方針で指導できるようにする
- ホームルームを設けるなど、クラス担任の個性が反映しやすいカリキュラムづくりを行う
- クラス担任のエネルギー負担のバランス配分が、生活指導に偏らないようなシステムにする



【クラス担任補助員・事務局補助員】

(1) 概要

クラス担任補助員（以下「担任補助員」と記載）は、16名の塾生を受け持つクラス担任の業務を実務的にサポートしながら、クラス担任の手が届かない部分について、塾生それぞれの相談役にも、潤滑油的な存在にもなりうる、クラス運営の下支え的存在であることが求められる。

昨年は、卒塾生がまだ年齢的に塾生と近いということがあり担任補助員への採用は見送られていたが、今年は20歳に達する卒塾生が出てきたため、担任補助員として卒塾生も採用した。結果として、担任補助員10名のうち、卒塾生とそれ以外の大学生の比率は5：5となった。また昨年は、女性の補助員が2名であったため、女性補助員を必要とする状況で負担を掛けすぎていたので、今年は男女比が5：5と理想的な配分になった。

また、事務局補助員4名も昨年同様に卒塾生から採用した。事務局補助員の仕事は、講義の撮影・録音、コピー、病人の介護、買い出しなど事務局の様々な補佐をする仕事で、塾運営が円滑に行われるかどうかのカギを握っているとも言える。

今年も、塾本番の約1ヶ月前に補助員の事前研修を行った。補助員のほとんどが関東と福岡に集中していたため、研修会場を東京と福岡の2ヶ所に分け実施した。研修後、補助員とクラス担任とが連絡を取り合い自主的に事前の意見交換に努めた。

(2) 成果・課題

補助員にとって、2週間の塾生たちとの共同生活は、現在の高校生の姿を肌で感じ取りながら、時に相談事に親身に答え、時に真剣に指導を行い、また時には喜びを共有しあうという、得られるものの多い貴重な経験となったようである。

<卒塾生の採用について>

今年卒塾生が担任補助員の半数を占めていたが、卒塾生である担任補助員は、自分が塾生として参加した時の経験を生かして状況に対応することができた半面、自身が塾生だった時のイメージに縛られ、塾生を導く立場になった今回とのギャップに戸惑った者もいたようである。一方で卒塾生以外の担任補助員の多くは、塾の全体のイメージを最初は掴みにくかったようで、試行錯誤を繰り返しながら自分の「リーダー塾像」を創り上げていったようである。ただ、卒塾生であるなしに関わらず、担任補助員はリーダー塾への情熱を持ち、リーダー塾のために実に精力的に考えて行動してくれた。また、卒塾生からなる事務局補助員は、「こんなにも裏方が大変だったのか」ということがわかる良い機会になったと思う。表舞台だけかっこよくやるのではなく、ものごとを成功させるためには、積み重ねの見えない部分をどう処理していくかが大切であることを学んでくれた。

担任・補助員という輪の中でリーダー塾経験者がいることは、経験に基づいた具体的な意見が出せるということで、周囲にとって重要な存在であると思われる。今後も卒塾生の採用を検討していきたい。

<塾生との関わり>

塾生から見た補助員の姿については、頼れるお兄さん・お姉さんの存在として信頼も厚く、塾生アンケートでも「大学生になったら自分も補助員としてリーダー塾に参加したい」という声も多かった。ただ、塾生らに対し親身でありすぎて線引きが難しくなったり、逆

に距離を取りすぎて塾生の本当の声をとらえきれなかったりと、自分の補助員としての立ち位置に悩む様子も多く見受けられた。補助員・クラス担任双方の意見から、補助員に必要な資質として「対人的なバランス感覚」が求められていることから、補助員の募集段階においてもその点を強調していきたい。

<クラス担任とクラス担任補助員の連携>

クラス担任から見た担任補助員の姿について、まず「担任補助員という立ち位置の難しい役割を、リーダー塾に対する熱意を持って実に一生懸命頑張ってくれた」という声が大半であった。ただ同時に、個人差はあるが、上述のような塾生への距離の取り方をもっと考えて欲しいという意見や、礼儀面、自主的な提案や行動に欠けているという意見もあった。

クラス担任や塾生というポジションに比べて、担任補助員はそのクラスにより立場・役割に幅が出やすいこともあり、自分がどこまで役割を果たせばよいかについて思い悩む担任補助員も少なからずいた。ただ、塾生やクラス担任が違えばある程度状況・役割も変わってくるのは必然であり、担任補助員はそれに応じて自主的に弾力的に対応すべきであるが、それに加えて、役割を明確にして行動するためにはクラス担任との連携の強化が求められる。

クラス担任が前半後半で入れ替わるのに対し、担任補助員は2週間を通しずっと塾生と関わる。多くの担任補助員は、後半の担任がスムーズにクラスの状態を把握できるようクラス状況の伝達を密にし、また塾生が新たな担任に早くなじめるよう担任の手の届かない部分で担任の意志を塾生に伝えることに努めていた。

クラス担任の項でもあった、塾生提出の「ふりかえりシート」のクラス担任コメント欄への記入について、担任補助員が担任と一緒に記入するというクラスも見られた。担任補助員も、塾生の直接言えない内面的な悩みのケアに繋がったり、担任と塾生についての意識を共有する場として重要視する意見が多かったが、やはりコメント記入の時間等が担任補助員の生活を圧迫しないように、そのありかたを考える必要があると思われる。

なお、塾期間中には、補助員同士が集まって自分たちの役割認識や各自が抱えている問題等について話し合うということも多いが、限られた時間で有効的な議論や道筋を生み出すためには、中心的なまとめ役の存在が不可欠となる。そのため、事務局としても担任補助員の募集・採用段階で、その中心人物となりうる者の確保を念頭に置きたい。

<事務局補助員について>

事務局補助員にはほとんどマニュアルがない。その時々にかかる、様々な想定外のことをどうこなしていくかが問われる。塾生の中で起こっていることも、担任補助員には見えない部分に対し、全体を見ているという視点からアドバイスしている姿があったのはうれしかった。しかし、その一方で、何かをしてもらうことが当たり前の世の中で、創意工夫して次の一手を打つということがまだまだだった。

また、今回は、マハティール氏御一行が福岡空港に到着して帰国するまでのアテンドも事務局補助員に手伝ってもらった。外国の方々に「おもてなしの心」を示すことを学ぶいいチャンスとなった。帰国するときには、マハティール夫人から「帰りの飛行機と一緒にマレーシアに来ないか。秘書にしたい」と事務局補助員が言われていた。とても嬉しい瞬間だった。

(3) 参加しての感想

- 高校生と社会人と一流の講師陣という、他ではあり得ない環境で2週間学んだことは、塾生として参加した時とはまた違った大きな経験になった。
- 高校生と色々な話をし、色々な企業の方の話も聞け、補助員同士も悩みをはっきり言い合える人ばかりであり、とにかく色々な意見を聞いたことが一番自分にとって得たものだった。
- 多くの出会いがあり、一つ一つが大切な思い出であり、本当に良い経験になりました。
- 生徒が成長していく過程を見られるのは2週間生徒の近くにいる補助員の特権ではないかと思います。
- 塾生のモチベーションが高さと大志を抱いているところが非常に頼もしいし、こちらも頑張らなくてはという気持ちにさせてもらえるので非常に楽しかった。
- ハードな毎日を過ごす中で、自分の長所や弱い部分、こういう能力を身につけたいというものが見つかったり、再確認するきっかけになりました。
- 人との出会いで人は大きく成長するものだと感じさせる出来事がたくさんありました。
- 壁に感じていたことを乗り越えて積極的になっていく塾生の姿が頼もしく、感動しました。
- 塾の表舞台の裏で、成功させるために裏方がいかに大変なのか学んだ。

(4) 課題のまとめ

- 募集・採用段階で補助員として求められる要素の明確化
- 担任補助員の役割分担についてクラス担任との連携の強化

【カリキュラムについて】

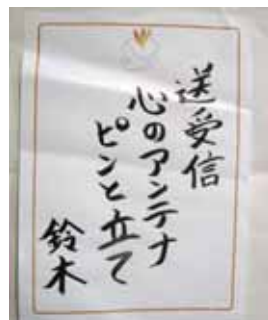
(1) 全般

今年はリーダー養成塾の初心に戻って「日本」について徹底的に学ぶというテーマを掲げた。例年以上に歴史や文化の講義に力を入れ、よりグローバルな視点で日本について学ぶため、3名の外国のトップリーダーによる講義を行った。日本語について考えるカリキュラムを取り入れ、終盤に日本人が苦手とされる表現力を一人一人鍛えるカリキュラムを実施した。また、発掘や野外活動など身体を使ったプログラムも例年より多く取り入れた。

(2) 今年の特徴的なカリキュラムについて

● 2週間の目標を五・七・五で作成

日本語の言葉のリズムを実際に使って創造するという体験をさせるために行った。テキストの最初のページに目標を書かせるとともに、クラスごとに張り出した。記入は、筆ペンで行った。



- **マハティール・モハマド前マレーシア首相、タクシン・シナワット元タイ王国首相、ジョン・トーマス・シーファー駐日米国大使による講義**

第1回目から毎年ご講義いただいているマハティール氏に加え、今回初めてタクシン氏とシーファー氏を招いた。タクシン氏とシーファー氏は8月1日に宗像市ユリックスにおいて、「高校生のための公開講座」として、塾生160名と福岡県・佐賀県の高校生400名に講義を行った。シーファー氏の質疑応答の際、高校生から「広島と長崎の原爆」について質問があり、「原爆投下は戦争の早期終了と死者の数を抑えるために仕方なかった」と回答。これはアメリカの公式見解であるが、この発言が63回目の広島と長崎の原爆記念日を目前にして、各種団体からアメリカ大使館へ抗議文が送られる発端となった。しかし、このようなデリケートな質問に対して、シーファー氏には立場の許す範囲内で率直に丁寧に塾生の質問に答えていただき、塾生も納得とはいかないものの、その誠意に感銘を受けていた。

タクシン氏はクーデターで一時は自国を追われており、一度タイに帰国したが、リーダー塾での講義の後、北京を經由してイギリスで亡命した。大成功したビジネスマンでもあり、首相時代には農村を中心に貧困者重視の政策を行ったタクシン氏は、「教養をしっかりと学び、ビジョンを持つこと。性急に行動せず、様々な意見を聴き、相手を根気よく説得することが重要」と語った。

3名の中では最後にマハティール氏が講義をしたが、同氏はいかなる戦争に対しても全面的に反対の態度をとり、戦争反対を表明する世界の立候補者を支援する団体も立ち上げている。よって、マハティール氏とシーファー氏の考えが非常に対照的な講義となった。

塾生は「国や立場によって考え方が違う」ということを、この3名の各国リーダーから学ぶ貴重な機会となった。



マハティール氏



タクシン氏



シーファー氏

- **佐賀県でのフィールドトリップ**

期間中の8月1日から8月3日の2泊3日、佐賀県の波戸岬少年自然の家に宿泊し、野外活動などを体験しながら日本と朝鮮半島の歴史について学んだ。

野外活動は、設備の都合上、各クラス10名をカッター活動、6名を飯盒炊飯として2チームに分け、それぞれ自然体験とチームワークを養成するという目的で行った。カッター活動は2クラスが1艇に乗り込み5艇で競争形式とし、ここ数年の自然の家での最速記録を出したとのこと。また、飯盒炊飯は薪割りから体験し、仲間と力を合

わせて作った自作カレーは味わい深いものとなったようである。

一方、一部の塾生やクラス担任から、「クラスを2チームに分けずに一緒にやりたかった」という意見があった。その他、後に述べる朗読発表の時にも一人ずつ発表するようにしたが、「チームでやりたい」という意見が多くあった。このように多くの場面で「群れて行動したい」、「自分一人で責任を取らなくてもいいように」という傾向が目立った。なぜ、「それぞれが経験した活動を報告しあって楽しむ」という発想にならないのか、ここに現代の若者の精神的弱さを垣間見た。しかし、全体的には、それぞれの野外活動を通してチームワークの大切さを学び、文明生活から少し離れて自然と触れ合う体験は、精神鍛練にもなりとてもよかったと考える。



カッター活動



飯盒炊飯

また、名護屋城博物館は、「文禄・慶長の役を侵略戦争と位置付け、その反省の上に立って、日本列島と朝鮮半島との長い交流の歴史をたどる」というコンセプトで建設された。その大きな特徴が、日本と韓国の両方の研究員が常駐して、事実に基づいた客観的な展示を行っている点である。日韓に限らず、世界各国で歴史観の溝が埋められずに戦争が起こっている。名護屋城博物館の特異なコンセプトから、このような問題の解決の一端を学んでもらいたいと思い取り入れた。塾生からは、もっと当該国の草の根の交流を活発にすべきであるという意見が多く出た。



名護屋城本丸跡地見学

● 田熊石畑遺跡発掘作業

リーダー塾を実施する宗像市は世界遺産登録に向けて熱心に活動している地域でもある。この9月には、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産の暫定リスト入りを果たした。この田熊石畑遺跡は、塾生が発掘作業をした1か月半前に一墳墓から全国最多の5点の銅製品が発見され大きな話題を呼んだ。そのような歴史のベールがまさに剥がれようとしている現場を発掘させていただいた。発掘作業の目的は、歴史探究を机上ではなく、現場で感じてほしかったからである。炎天下の中、スコップ片手に一

生懸命作業をした。かなりの数の土器などが出てきたが、中には歴史的価値が非常に高い矢じりの一部を発見した塾生もいて、地元紙などで大きく紹介された。歴史の真相は一夜にしてわかるものではない、地道な努力の上に人類の長い歴史が解明されてきたことを感じる貴重な機会になった。



発掘作業



発掘現場の年代まで
揺るがせた大発見



塾生が発見した貴重な
拾得物の一部

● 宮沢賢治と「雨ニモマケズ」朗読発表大会

日本の心を代表する宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を塾の前半で暗記し、塾後半で一人ずつ自分なりの表現を加え、クラス単位で一人ずつ発表した。そして、一番良かった塾生をクラス代表に選出した。そして、朗読発表大会では、クラス代表 10 名が個性を發揮した発表を行った。

朗読発表に先駆け、宮沢賢治の研究者でもある宗教学者の山折哲雄氏に「『デクノボー』になりたい」という演題で講義いただいた。宮沢賢治が他人のために何ができるかと常日頃から考えている姿は、リーダーとしてというより、大人への階段を駆け上がっている人間として塾生に学んでもらいたい精神である。

朗読発表大会には、山折哲雄氏に再度お越しいただき、シンガーソングライターの宇佐元恭一氏にも審査員をお願いした。宇佐元氏は「雨ニモマケズ」にメロディーをつけ、全国で話題になっている。両氏とも宮沢賢治の出身地である岩手県の「いわて文化大使」に任命されている。朗読発表のルールは、一言一句変えず（外国語や方言への翻訳は可）、詩の一部分だけの表現は可とした。身振り手振りで劇をする塾生、曲や踊りをつける塾生、英語で表現する塾生、紙芝居を制作したものなど多種多様で、その発想と表現力の豊かさには驚かされた。優勝したのは、心に染み入るような朗読をした馬場勇大朗君だった。



クラス代表の
パフォーマンス



審査員の山折哲雄先生
と宇佐元恭一先生



優勝した馬場君への
記念品授与

- **アナウンサー 梶原しげる氏、落語家 柳家喬太郎氏、シンガーソングライター 宇佐元恭一氏による日本語について考え、五感で感じる講義**

言葉について様々な角度から見てみるということで、言葉を職業にしている 3 名の講師を招いた。

梶原氏には「若者のコミュニケーション能力は落ちているのか」という演題で、実際の世論調査を元に検証してもらった。梶原氏は、大学教授、イングリッシュ演歌歌手、カウンセラーの顔も持つ。若者のコミュニケーション能力は必ずしも落ちていないということで、若者世代に少し自信を取り戻したようであった。



イングリッシュ演歌を披露して下さった

講義後には質問の大行列ができた

柳家氏には「落語入門」という演題で落語と他の芸能の違い、落語の様々な技をご披露いただいた。しかし、何よりも芸の根底にあるものが「お客様を思う心」というお話に芸の真髓を感じた。



宇佐元氏には、1 時間半のライブで自身が作詞作曲された数々の名曲を披露してもらった。塾生には入塾以前に歌詞を配布し、どのようなことを感じるのか自身の心と対話をしてもらっていた。「『雨ニモマケズ』言葉から感じ取る心とイメージ」という演題であったが、その言葉通り、体と心で感じる講義となった。特に「モッタイナイ」という歌を全員で大合唱した時は、大きな手拍子、足拍子が加わり、塾生はあり余るエネルギーを発散した。ライブ形式の講義を通して、音楽が与える大きな影響力を五感で感じるものとなった。



● 京都芸術大学学長 千住博氏による絵画指導

千住氏の講義の後、千住氏が手掛ける2011年開業の新博多駅の壁画タイルの下絵を一人一枚描いた。描いた絵は有田焼の陶板となり、博多駅を通りがかる人々を楽しませることになる。講義中、「芸術とはイメージーションのコミュニケーションである」というキーワードを何度も千住氏がおっしゃったが、自身の絵が将来多くの人とコミュニケーションするという概念がとても深く心に残って、塾生は出来上がりを非常に楽しみにしている。また、このタイル画の参加費用1000円(1枚)は、環境保護の資金として貢献することになる。



(3) ディスカッション

塾生の多くはディスカッションでテーマに沿った話し合いをするということを殆ど経験していない。今回は初めて1時間半のディスカッションワークショップを設けて、ディスカッションのやり方に対するレクチャーを行った。実際にやってみないと内容にピンと来ないようであったが、ディスカッションの目的と役割分担、最低限のルールなどを説明し、ペアで簡単なトピックでスピーチや自分の意見を言う練習を行った。

ディスカッションのやり方は、クラスごとに任せた。特に司会を務めた塾生が、バラバラの意見を整理してまとめたり、話の脱線を軌道修正したりするのに苦労していたようであった。よって、深い議論にまで至らなかったケースや、一部の塾生が自分の意見が通らず、感情的になって雰囲気が悪くなったこともあるようであった。また、講義の時間を延長したことによって、ディスカッションの時間が短くなるが多かったため、不完全燃焼になってしまった回もあった。しかし、失敗も通して、相手の意見を聞き、自分の意見を主張することの醍醐味を経験できたようである。ディスカッションは、リーダー塾ならではの特色あるカリキュラムであるため、より濃いディスカッションができるよう、時間管理やディスカッションのやり方を再検討したい。



(4) ふりかえりレポート

今年から、毎日講義内容を復習し、思考力を鍛えるため「ふりかえりレポート」を提出させた。講義の感想だけでなく、自分の考えを回答する質問事項を多く設けて、自分の意見を持つという訓練を行った。毎日30分程度で記入し、提出させた。これにより、講義内容を自分の立場で落とし込むという作業が毎日できてよかったと思う。考えるカリキュラムとして、来年度からも取り入れていきたい。

(5) ふりかえりシート

昨年度から始めた「ふりかえりシート」は、塾生とクラス担任のコミュニケーションツールとしての役割を果たす。このシートには、なかなか口で言えない本音が語ってあることが多く、クラス担任が塾生一人一人の状態を把握するのに非常に役立った。クラス担任はコメント記入をして返却するが、塾生はこのコメントを毎日楽しみにしており、とても励みになったようである。しかし、前述したように、クラス担任のコメント記入に時間をかけすぎてしまった方もおり、時間配分を各自でコントロールしてもらう必要がある。また、本来であれば面と向かって悩みを打ち明けてもらいたいところでもあるので、ふりかえりシートはそのきっかけとなる役割として活用していきたい。



深夜までふりかえりシートに目を通す
クラス担任・補助員

(6) 全般的な反省と課題

リーダー塾のカリキュラムについて塾生が勘違いしている点が多いという印象を受けた。リーダーになるための「テクニック」や「ノウハウ」を教える塾だと考えている塾生が多いように感じた。そう考える理由の1つに、リーダー塾の大きな特徴の一つである「教養系」の講義の中で、歴史や文化の講義が多いことに関して問われることが多かったからである。また、講師への質問に「どうしてそう考えるのか？」ではなく、「どうやったら、

できるのか？」という方法論を問う質問も多かった。講師が「世界で活躍するためには、まずは自国の歴史や文化を学ぶことが必要」と繰り返し伝えるにも関わらず、「どうやったらリーダーになれるか」というところに非常に興味があるようである。当塾のカリキュラムは、まずはリーダーとなるための礎となる教養や基本的能力・人間性を養い、いつリーダーに抜擢されても準備ができておくというのが根本的な目的である。リーダーになれるかどうかは、本人の努力、周りからの信頼やその時の状況次第である。こ

の原因は、PRの仕方にもあるのかもしれないので、今後塾の方針や内容をより詳しく伝えていく必要がある。



塾生に配布するテキストの表紙。テキストには、講師のプロフィール、講義概要、参考図書、資料、生活の手引きなどが記載されている。

カリキュラムについて、スケジュールが過密だという意見が塾生やクラス担任から多くあった。確かに、今年は例年より濃厚なカリキュラムであった。しかしながら、間に合わないときには走る、きびきび行動する、声を掛け合う、やむをえず遅れる時は連絡するなど、自身の努力で解決できる部分も多くあった。カリキュラムのハードさは、例年とほとんど変わりはない。大学の授業もキャンパス内移動含めても、基本は90分授業と10分の休憩時間である。緊張感やハングリー精神、時間や規則を守るという意識が低くなってきているのではと思う。そういう意味でも、単に休憩時間を増やすだけで、さまざまな問題が解決されるとは思えない。リーダーを目指す塾生には、より高い次元でものを考えることを期待したいので、ハードなスケジュールでも強い精神力、体力、応用力で乗り越えられるよう、自分自身の力を試してもらいたいと思う。

【事務局運営について】

今年の事務局運営については、主に準備不足が原因でご迷惑をかけたことが多々あった。また、事務局自体のタイムマネジメント、連絡体制、指示の具体性やスピードにも大きな改善が必要とされる。事務局スタッフは、4名のうち2名が福岡県と宗像市より2年もしくは1年単位で派遣いただいております、今年も4月からスタッフの半分が入れ替わった。5年目を迎え、反省点から効率的かつ効果的な運営のノウハウも整理して、スタッフ入れ替えによる影響を最小限にとどめたい。そんな中、現地で多大なサポートいただいた参画県のご担当者の皆様、クラス担任及び補助員の皆様、ボランティアで事務局運営をお手伝いしてくださった春日市役所の上野さん、資生堂の桃井さん、そしてグローバルアリーナのスタッフの皆様には心から御礼を申し上げたい。

【資料】

1. 塾生アンケート調査結果

今回は、アンケート調査に加え、1日ごとに、塾生全員にふりかえりレポートを記入させ、講義内容の感想を提出させた。

報告書では、主な設問について掲載することとする。なお、アンケートに回答しなかった塾生がいること、また、一部回答していないものなどがあり、総数がバラバラであるため、人数ではなくパーセンテージ(%)で表記している。

問1 感銘を受けた講義・自分でものを考える上で役に立った講義(3つ選択)

アンケート集計上位5つを記載

沈 壽官氏	29%
古川 康氏	27%
宇佐元 恭一氏	25%
マハティール・モハマド氏	24%
安田 喜憲氏	24%

沈氏は、ご自身の陶工としての半生を振り返りながら、さまざまな経験において自ら学び取った教訓を力強い言葉で語ってくれた。そのすべてが経験則に基づいた講義内容であったため、塾生たちは、その一言一言を説得力のある言葉として直接心に響かせることができたようである。また、沈氏の「いわれなき差別に対する闘争心」を肌で感じ取り、そのあふれる強さを直接注入されたように感じた塾生も少なからずいたようである。

古川氏は、リーダーになるための7つの条件について、豊富な経験とユーモアを交えながら力強く語った。また塾生の質疑応答によりウエイトを置き、塾生との直接の対話に力を入れてくれた。塾生は、古川知事の明るさ、包容力溢れる人間性や、若者の目線に立ってわかりやすい言葉で語る姿に共感した様子で、それぞれが自分自身を見つめ直し、自分が目指すべきリーダー像に思いをめぐらせていたようだ。

宇佐元氏は、実際にライブ形式で曲を演奏しながら、歌を心で感じとる事の大切さを伝えた。また、塾生に「強い願いがあれば何にでもなれる」と熱いメッセージを送った。塾生たちは、パワフルなステージに圧倒されながらも、手拍子や足拍子で体全体を使ったり、声を出して歌ったりしてストレスの解消にもつながったようである。

マハティール氏は、一般社会では人を殺すと犯罪なのに、国家間の戦争で人を殺す事自体が、解決手段の一つとして認識されている事の矛盾を指摘した。そして、「戦争で人を殺す事は犯罪であり、最大の罰を受けなければならない。」と熱心に語った。塾生には、「戦争をする国家を我々が変えなくてはならない」など唯一の被爆国の国民としての責務を感じる機会となったようである。

安田氏は、文明のあり方が環境に与える影響について、モアイとナマハゲという、一見

すると何の関係も無さそうな2つの事例を切り口とし、自然を守りながら生きていく事の大切さを熱く語った。塾生は、ユーモアと情熱を交えた安田氏の語り口に、「僕たちの世代が環境問題を解決しないといけない」など自分達が、これからの地球環境を守っていく担い手であるという自覚を持たせたようである。

各講義の要点と、塾生の感想（代表的な意見を抜粋）

麻生 渡 氏

（講義要点）

リーダーとなるためには、近現代史を学ぶ事が大切である。かつての日本で、経済的な不況やテロに対する恐怖から、軍部の台頭を許してしまった過去を教訓として学ばなければいけない。ただし、歴史を評価するには現代の感覚だけで考えてはならず、謙虚である事が必要。自国の文化、歴史について説明できない人は決して尊敬されない。世界で活躍するためにも、幅広い教養を身につけなければいけない。

（講義の感想）

- ・自分の国を理解し愛せている人間でないと、他国のよさは見えてこないだろうと感じた。
- ・日本に主張力がないのは発言力がないからだと思う。
- ・祖先がした事でも、今を生きる人達はその荷を背負っていく必要がある。

榊原 英資 氏

（講義要点）

日本はきわめてユニークな国。外国から征服される事なく、長く平和な時代が続いたため、高い文化レベルを持っていた。一方で、異質なものを理解する能力が弱くなってしまった。これからは異質なものと関わる事で、自分自身を成長させていく事が重要となる。そして、失敗から新しい事を学ぶ事ができるのだから、失敗を恐れずに常にチャレンジして行ってほしい。間違ったら直せばよい。一日一日を大事にしていかなければいけない。

（講義の感想）

- ・異質なものを受け入れ、失敗を恐れずに挑戦していきたい。
- ・言語は文化と共に認識するという新しい視点があった。
- ・短期の目標を持ち継続すれば必ず達成できるという言葉に、自信を持てる気がした。

山折 哲雄 氏

(講義要点)

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」は自己犠牲の精神に対する解釈が、世に広まっている。だが決してそれだけが、この詩の本当の意味ではない。賢治はもともと狩猟民的な感覚を持っており、人間と動物は対等であるはずなのに、人間が食われる事を拒否するのはエゴイズムであり不平等という考え方を持っていた。人間である事を拒否する「デクノボー」になりたいという願いは、痛烈な人間批判の言葉である。

(講義の感想)

- ・ノートをとらないよう言われた時、真剣に話をしてくださる気持ちが伝わり嬉しかった。
- ・宮沢賢治の、自分の意志で人と違う事を恥ずかしがらずにできる独創的な発想に驚いた。
- ・「人を嫌いながら人のために生きたい」と考えた賢治の矛盾した思いから人間味を感じた。

徳川 恒孝 氏

(講義要点)

徳川時代は、世界でも稀に見る平和の時代であった。戦争による国内の疲弊がなかったため、好景気と高い文化を育んだ。特に寺子屋などの教育システムでは高い識字率を実現した。また、江戸時代の日本は資源を大切に作る社会であった。これからの若者はいずれ自分達に降りかかってくる環境問題にもっと関心をもってほしい。人間は地球に優しくなど出来ない。むしろ地球から優しくしてもらっている存在である。

(講義の感想)

- ・親の教育が必要で、大人 = 完成ではなく、常に成長が必要である。
- ・物を大切にして資源を使わないという調和やバランスの心を思い出したい。
- ・寺子屋で上級生が下級生に教える事は、教える力を鍛える事で学習力が伸びると思う。

安田 喜憲 氏

(講義要点)

モアイは、自然を奪う社会の象徴。森を破壊した結果、島内で穀物も作れなくなり、急速な文明崩壊を招いた。一方ナマハゲは、日本人の稲作漁労社会を象徴している。稲作漁労社会は、自然を大切にし他人の幸せを考えながら生きる事が必要であり、持続可能な社会と言える。そう遠くない未来の文明崩壊の危機を乗り越えるために、皆さんは地球温暖化防止等、まず身近な事から取り組んでほしい。

(講義の感想)

- ・「山川草木国土悉皆成仏」は、日本人が本当に大切にすべき慈悲の心だと思う。
- ・ナマハゲが優れているご説明で、文化や文明は常に自然と関連していると感じた。
- ・自然は環境破壊に黙って耐えていて、それは女性の母の慈みの心と近い。自分の母親と重複し、地球に対して凄く申し訳なく思った。

川勝 平太 氏

(講義要点)

国には力(軍事力)、利益(経済力)、価値(文化力)が必要である。先進国との戦争がなくなった今、力から利益の体系に力点が移ってきた。人を集める魅力として文化力がより重要となっている。

日本の気候的条件をみると、亜寒帯から亜熱帯まで幅広い事から、日本は地球の生態系のミニチュアと見立てられる。また、京都を中心として東洋文明を、東京を中心として西洋文明を血肉として取り込んだ上で、日本独自の文化を持っている。日本は世界の文化の博物館と見立てる事もできる。

(講義の感想)

- ・地球環境のミニチュアと呼べる日本に生まれたのだから、よい環境を守っていきたい。
- ・日本は美しい、日本はもっと自国の文化に対して誇りを持つべきだと感じた。
- ・地元に戻ってきたいと思わせる魅力を見つけるためには、もっと自分の地元について知る必要がある。

明石 康 氏

(講義要点)

日本はODA、PKO、紛争調停などの面でまだまだ世界への貢献が足りない。現代世界の公用語である英語をバランスよく身につけ、グローバル化に対応しなければいけない。グローバル化には富の無限な可能性や相互交流などよい面もあるが、感染症や核兵器の拡散など負の側面もある。外交の場で、自国だけの国益を押し付けるのではなく、相手への理解力や交渉力で、共通の利益の部分大きくしていく必要がある。

(講義の感想)

- ・新しい時代の可能性と危険を認識して、相互理解をもとにした行動が必要だと思う。
- ・メディアに惑わされないために、海外と日本のニュースを比較してみたい。
- ・謙虚に国連の枠内でも枠外でも協力し、手を差し伸べなくてはならない。

ジョン・トーマス・シーファー 氏

(講義要点)

私が高校を卒業した頃と違い、世界は科学技術の進歩等によりかつてない程豊かになった。またグローバル化が進行し、世界の変化のスピードは速くなるばかりである。

その一方で変わらないものもある。人間の精神は正義を、人間の魂は平和を、人間の心は愛情を求める。成功の真のものさしとは、皆さんが愛し愛されるようになった人の数である。それがあれば、どのような変化があろうと幸福を見出す事ができる。

(講義の感想)

- ・民主主義化を押し付けるだけでなく、個々の国にあった平和の形があると思う。
- ・環境問題を、「地球の終わりではなく新しい世界の始まり」ととらえている事が新鮮だった。
- ・原爆投下されたのがアメリカ側であったなら、仕方なかったと言えるか疑問に感じる。

タクシン・シナワット 氏

(講義要点)

世界はボーダレスになり、あまりにも複雑に急速に変わりつつある。リーダーになるためには、常に変化に備え、変化を主導しなければならない。そして情報や知識だけでなく知恵が必要となる。また、信念を持ち根柢を持った上で、勇気を持って大胆に人と違う行動をすることが必要である。何より、コミュニケーションを理解し、自分の意見をきちんと伝え、自分の道を相手に理解してもらうことが重要である。

(講義の感想)

- ・リーダーとして、周りに耳を傾け、お互いを尊重し、信頼される人間になりたい。
- ・支援とは、単なる物質的なものでなく、将来につながる様なものが必要だと感じた。
- ・上にいても下にいても、他の人の立場になって行動しようと思った。

古川 康 氏

(講義要点)

リーダーとなるためには、「明るい人であること」「忘れられる人であること」。忘れることを技術と思い、嫌な事を引きずらず忘れる努力をすべきである。また、「媚びない人であること」「諦めない人であること」。成功した人は諦めずに「成功するまでやった」人であり、成功しなかった人は「成功するまでやらなかった」人なのである。絶対にこの目標を達成すると思えば、必ず何らかのやり方があるものである。

ぜひ人生観が変わるような強烈な体験をしてほしい。

(講義の感想)

- ・説得力を得るためには技術ではなく、伝える思いが大事だと感じた。
- ・自分はこれだというものを諦めずに明るく追いつけていこうと思った。
- ・陰で地道な事をしている人の存在を忘れてはいけないと思った。

沈 壽官 氏

(講義要点)

大陸や半島の否定と創造の文化に比べ、日本は保存と活用の文化を作り上げた。

創作には自分の意思・感性 (Will) と技術・表現手段 (Skill) の両方が必要である。

自らを一個の人類に仕上げていく。そう心がけていくこと。そしてどこに行っても通用する強さを持たなければいけない。リーダーというのは人に奉仕をする人。自分のためではなく、人のために生きなければいけない人たちである。

(講義の感想)

- ・社会が成熟するほど個人は未熟になる中で、自分の芯を持ち続けていく事が大切と思う。
- ・自分は自分でないという話を聞き、忘れかけていた親への感謝を考え直す事ができた。
- ・日本人は自国への関心が足りないのではないかと思った。

金澤 一郎 氏

(講義要点)

人間のすべての活動は脳の働きによる。そしてそれぞれの活動によりそれぞれ脳内で司る部位が異なる。脳には感受性期があり、その時期における経験がこころを育む上でとても重要であると考えられている。

いつも脳は柔らかくしておいてほしい。そして常に疑問を持ち、物事の本質を問いてほしい。ただ、硬い頑固な脳が良いものを生み出すこともある。

(講義の感想)

- ・脳の質量と消費エネルギーの関係について、脳はものすごい重労働をしていると思った。
- ・記憶の強化ができるということを知り、将来老いてから希望が持てる気がする。
- ・医者が減っている現状は、医者メンタル面や生活面も考え対策をとるべき。

三村 明夫 氏

(講義要点)

日本の製造業の技術は、産業連携による切磋琢磨、日本のユーザーの難しい要求に答えようとする努力、そして環境技術についての研究などをベースとして発展してきた。

企業は、一定の制約条件の中でさまざまなバランスをいかにとっていくのが大事。小さなバランスを取るだけでなく大きなバランスを取る必要がある。日本は、製造業で全世界に評価される類まれな商品を作り、資源が無くても経済発展できるという大きなバランスを取ってきた。

(講義の感想)

- ・発展と環境の調和はとても難しいので、世界全体で考えていく必要があると思う。
- ・ユーザーの条件に応え技術力が高まるなど、苦労は人も国も成長させるのだろう。
- ・人間は自分の利益を優先にして考えているのだなと思った。

室伏 きみ子 氏

(講義要点)

地球上で最初の生命が生まれたのは40億年前と言われている。ヒトは、その40億年の生命の歴史・経験がその遺伝子の中に凝縮されている。ストレスとは環境変化であり、適度なストレスを進んで乗り越えることで、より大きなストレスに立ち向かうことができる。そのようにして生命は進化してきた。ヒトは、優れた理性・知性を持ち文化を創造することができるがゆえに、地球の将来に対し責任をもつ必要がある。

(講義の感想)

- ・人生の困難な問題に対応するためにも、適度なストレスで耐性をつける事は必要。
- ・一人ひとり今存在していることが奇跡的というお話に、まわりへの感謝を考えた。
- ・ヒトは動物の中でも頭がよい方だけど、時に文明を滅ぼしかねないと思った。

竹内 弘高 氏

(講義要点)

ビジネス戦略において、アウトサイドインとインサイドアウトという考え方がある。アウトサイドインは、外で何が起きているかを相対的に分析して自分の立ち位置を決めることであり、インサイドアウトは、自分特有の強み・知識・資源を生かして戦略を立てていくことである。そして、この相反する2つの考え方を、妥協ではなく高い次元でどう乗り越えられるかが、成功するために重要となる。

(講義の感想)

- ・ある決断の場面で勇気をもって人と違う事をするのが、成功の条件と感じた。
- ・全く反対の方向から見てみる考え方から学ぶところがある。
- ・ビジネスマンからの視点で話され、経済の流れがわかった。

加藤 暁子

(講義要点)

次世代の皆さんにこの地球を救ってほしい。自分ができないことを皆さんに託したいという気持ち、それはおそらく講師の方々みんなの思いである。

リーダーになるための条件とは、人の話をよく聞き学ぶこと。自分自身がぶれないということ。そして自分に対して強くあること。泣いてもその倍ぐらい笑顔になるよう努力することだ。

(講義の感想)

- ・つらい思いをすればするほど人に優しくできるという言葉に納得した。
- ・先生の記者としての話を聞き、人にものを伝えることの難しさを考えさせられた。
- ・ちょうど家族の事を思い出していた頃だったので、真剣に親と向き合おうと思った。

マハティール・モハマド 氏

(講義要点)

殺人を犯すことは、いかなる事情があっても犯罪である。どうして通常の世界では、人を一人殺したら死罪になるほど重罪なのに、国家や政府が戦争で何万人の人を殺しても犯罪にならないのか。今アメリカが保有しているミサイルや爆弾だけでも、地球上の生きとし生けるものをすべて破壊できる。私たちに無償で与えられたあらゆるものに対して、そのような破壊をしながら、どうして文明化された世界に生きているといえようか。このような悲惨な戦争を食い止めるために、私たちが今から行動を起こさなければならない。実際に戦争がなくなるまでには、何十年とかかるだろう。そのために、今行動を始めるべきだ。

(講義の感想)

- ・日本はもっとアメリカに意見をぶつけてもいいと感じた。
- ・戦争して大量に殺人して勝っても勝者ではない。殺人に変わりはない。
- ・「原爆が落とされた意味がわかるのは日本人だけだ」という言葉が印象的だった。

李 鳳宇 氏

(講義要点)

ここ最近日本で一番ヒットした映画は、海外の人は全く観ていないという現象が続いている。他国ではそのようなことはない。自分たちの国の表現は、自分たちにこだわればこだわるほど、インターナショナルに近くなる。映画は「外交官」のような役割を果たす。映画によって日本人を知らしめることは、非常に有効で効果的。われわれが世界に向けてどんな映画をつくっていけるかということが重要である。みなさんには、是非そういった表現に参加してほしい。

(講義の感想)

- ・映画はメッセージを持って世界をめぐるので、各国の思想が一番よく伝わると思う。
- ・日本映画はストーリーでなく役者に重きを置いているから浅い内容になるのではないか。
- ・自分が本当に伝えたい事を表現すれば、必ず誰かが評価してくれる事を信じる事が大切。

笠谷 和比古 氏

(講義要点)

武士道に基づく強い組織とは、いかに自立した個人を多く抱えているかということである。上の身分の者に対してや、いかなる状況においても、一人一人が自分の意見を持ち主張できないようでは、その組織は危機に瀕したとき即座に崩壊する。また、武士道におけるリーダーには、個性は強いが能力のある部下をコントロールして、その能力を活かすことが求められた。これらの精神は過去のものではなく、現代社会の不正やいじめを防ぐ解決策につながるのではないか。

(講義の感想)

- ・日本の社会を変えていくには、上の人にももの申すぐらいの気持ちが必要だと思った。
- ・年功序列はもともと実力主義であるというのは、新しい視点だった。
- ・武士道と現代社会の差が激しく、日本は日本らしくない成長をしてしまったと感じた。

梶原 しげる 氏

(講義要点)

コミュニケーションといってもいろんな方法がある。最新の文化庁の国語に関する世論調査によると、かならずしも若者のコミュニケーション能力が落ちているとは言えない。しかし、携帯電話がない時代は、不便だったからこそ、年齢が高い世代のコミュニケーション能力が上かもしれないという感じがする。その反面、若者がボランティア活動に参加するというのは、逆に昔はなかった。今は携帯・パソコンで連絡を取り合って、ネットワークを作るというという意味では、デジタルは無数の可能性を持っている。

(講義の感想)

- ・曖昧言葉はコミュニケーション能力かもしれないが、はっきり言うべき時もある。
- ・ネットで言いたい事を言うのは、実際に話す前の過程としてはよいのではないかと思う。
- ・思い込みの間違った情報に惑わされないようにしたい。

柳家 喬太郎 氏

(講義要点)

落語というのは、お客様に笑ってもらってこそ価値がある。落語家は、学校に通って体系的に学んで技術を習得してなれるものではない。

噺家に求められる即興性というのは、客席から巻き起こったハプニングに対して、周りの人々の不愉快がなるべく最小限になるようにするよう、気を遣うことである。その即興性の根底には何があるかという、「お客様を思う心・気持ち」、「来てくれたお客様を大事」にする心である。

(講義の感想)

- ・真打になってもまだ半人前と聞き、いつまでも学び続ける精神が大事なのだった。
- ・話のテンポ、表現方法が絶妙で、すぐにその情景を想像できた。
- ・才能が無いと、努力だけではどうにもならないという真実を隠さずに話してくれた大人は今までいなかった。逆に努力する勇気が湧いてきた。

宇佐元 恭一 氏

(講義要点)

今、皆さんは何だってなりたいものになれる。願って願って願ってみてください。もし願いが叶わなかったら、もっと願ってください。今日の皆さんのエネルギーはすごい。必ず自信をもって今日のような輝いた瞳と心と、人を助ける気持ちをもっていてください。

(講義の感想)

- ・曲の中に今の人が忘れてしまったものがあるので、多くの若者に聞いてほしい。
- ・曲は歌詞を先に見た方が、メロディーがついた時の喜びが大きいと思う。
- ・何かが終わったら落ち込むのではなく、次の始まりを前向きにとらえていきたい。

千住 博 氏

(講義要点)

芸術というのはイメージーションのコミュニケーションである。なぜ日本の鎧兜に美しい装飾がしてあるのか？美しいものほど無傷で帰ってくる。武士道というのは、鎧兜を見る限り、殺されないように生きて帰ってくることだ。これが、美の役割。芸術とは、仲良くやっていくために生まれた。相手の痛みを知ろう、相手の話を聞こうとすることから始まって、なんとか分かり合えない人とやっていこうとすることが「芸術的発想」。リーダーというのは、他人の痛みがわかる人のこと。それが絶対的なリーダーの条件。皆さんには芸術的発想ができる素晴らしい社会人になってもらいたい。

(講義の感想)

- ・芸術はコミュニケーションなのだから、自分だけがわかるだけはいけない。
- ・芸術的発想を持ち、行動と結果を連鎖的に頭で考えられるようになると思った。
- ・目で見えるものだけでなく、いろいろなもので感じられる美を追求していきたい。

問2 興味深かった施設やイベント（複数回答可）

アンケート集計上位5つを記載

九州交響楽団「一万人コンサート」	47%
野外活動（カッター、炊飯）	45%
インプロシキングワークショップ	43%
前半クラス担任ゲーム大会	28%
ディスカッションワークショップ	25%

傾向として、前半部分でのイベントが上位に多かった。リーダー塾に参加して間もない時期でもあったため、塾生同士の親睦をはかる意味でも、通常の講義メニューと違った動きができた事がよかったようである。

九州交響楽団「一万人コンサート」は、国ごとに選曲された曲を解説付きで体験する事が出来、各国の音楽の特徴などがわかりやすくとても有意義だったようである。観客が手拍子で参加する曲もあり、ただ受身で聞くだけでなく指揮者や演奏者との一体感により、音楽から協調の大切さを肌で感じ取れていたようだ。

野外活動では、屋外で実際にカッターに乗船し、船をこぎ進める共同作業を行ったり、カレーの炊飯の共同作業を行った。塾生たちはチームワークをとるために、声をかけて呼吸のタイミングを合わせたりするなど、周りとの協調性をとる事を体を動かしながら実体験でき、よい思い出になったようだ。

インプロシキングワークショップは、まだ深く知り合えていない時期に、仲間との絆が深まるきっかけとなったようである。また、体を使って即興で表現する事で、以降のカリキュラムに対する積極性にもつながったようだ。

前半クラス担任ゲーム大会は、事務局で準備したものでなく、クラス担任の先生方が生徒により楽しんでもらうために企画したものである。より担任の先生及び補助員と生徒との距離が近くなり、クラス内の結束が高まったようである。

ディスカッションワークショップは、参加した塾生達は、日頃ディスカッションをする機会がないため、実際に行う前に心構えや流れを学ぶ事が出来、本番のディスカッションをよりスムーズに進行させるため役立ったようである。

問3 下記のカリキュラムについて感想を聞かせてください。

(1) インプロシキングワークショップ

とても良かった	53%
良かった	34%
普通	10%
あまり良くなかった	3%
良くなかった	0%

(主な感想)

- ・みんなで協力することの大切さを身をもって楽しみながら知った。
- ・即興で考えることは、とっさの判断が必要な Leader にとって大切だと思う。

(2) ディスカッションワークショップ

とても良かった	35%
良かった	25%
普通	35%
あまり良くなかった	4%
良くなかった	1%

(主な感想)

- ・ディスカッションとはどのようなものか初めての自分でもわかった。
- ・その後のディスカッションがスムーズに出来た。

(3) 九州交響楽団「青少年のための一万人コンサート」

とても良かった	64%
良かった	29%
普通	5%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	1%

(主な感想)

- ・初めての経験だったので、音が生き物のようだと感じた。
- ・国ごとの選曲だったので、各国の特徴をとらえることができとても満足した。

(4) 田熊石畑遺跡発掘

とても良かった	29%
良かった	29%
普通	23%
あまり良くなかった	14%
良くなかった	5%

(主な感想)

- ・歴史を身近に感じられ暗記ではなく記憶として心に残った。
- ・土器や珍しい物を沢山発掘でき、関心が持てた。

(5)「雨ニモマケズ」朗読発表

とても良かった	55%
良かった	32%
普通	11%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	1%

(主な感想)

- ・それぞれ発表のやり方が違い、個性が出ていて面白かった。
- ・新しい「雨ニモマケズ」をイメージすることが出来た。

(6)目標宣言

とても良かった	65%
良かった	23%
普通	10%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0%

(主な感想)

- ・1人1人全く同じ夢が無くて、聞いてて飽きなかった。
- ・自分の発言に責任がついてくるので頑張ろうと思う。

(7)ふりかえりシート(クラス担任のコメント入り)

とても良かった	64%
良かった	28%
普通	5%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	1%

(主な感想)

- ・自分の思いを素直に書け、先生もそれに答えてくれた。
- ・先生のコメントは自分自身をちゃんと見てもらえている感じがして親しみやすかった。

(8) ふりかえりレポート

とても良かった	25%
良かった	31%
普通	34%
あまり良くなかった	6%
良くなかった	4%

(主な感想)

- ・ 講義をまとめる機会があることで、より深く考えることができた。
- ・ 自分の中で日々の進化が見られた。

(9) 家族への手紙

とても良かった	42%
良かった	28%
普通	25%
あまり良くなかった	5%
良くなかった	0%

(主な感想)

- ・ 家族の大切さを改めて実感できた。
- ・ 手紙を書く事で自分の気持ちを整理する事ができた。

問4 リーダー塾に参加して一番よかったこと

記述形式のため、キーワードをピックアップして集計した

志の高い、一生付き合える仲間・友人ができた	49%
講義やディスカッションから、新しい知識を得られた	26%
2週間の講義・ディスカッション等での学びを通じて、成長できた	17%
自分自身を見つめ直せた・自分に足りないものが分かった	7%
その他	1%

ほぼ半数の塾生が、全国に志の高い仲間・友人ができたと答えている。やはり二週間寝食を共にした仲間の事が強く印象に残ったようだ。「さまざまな人と触れあって考えが広がり素晴らしい仲間ができた」など日本中の特色ある人と出会えた事で、自分の視野を広める事ができている。また、「共に高めあえて将来が見えるようになった」「これからもずっと付き合っていきたい」など、今回だけで終わらずに継続してお互いを高めあう信頼関係を築く事ができたようである。

また、一流の講師陣の講義やクラスでのディスカッションを通して、多様な価値観や意見が聞けた事で、「自分の夢が具体的になった」「成功への加速がついた」など、今後の人生の起爆剤となったと思われる。そして2週間の中で、自分というものを見つめ直す事で、「いろんな人の違いを認める事ができた」「自分の考えを言葉に出す事ができた」など、自己の成長を実感できていた。

問5 塾に参加して困ったこと、改善した方がよい点

記述形式のため、キーワードをピックアップして集計した

塾運営に関すること	19%
施設・設備面に関すること	17%
カリキュラムやスケジュールに関すること	35%
他の塾生に関すること	15%
その他	14%

最も多かった意見は、カリキュラムやスケジュールに関することであった。主に「スケジュールが詰め込みすぎ」「カリキュラム間の間隔が短すぎる」など日程の過密さに対する意見が大半だった。講義時間が延びた結果、後のカリキュラムに影響が出てしまうため、講義が時間どおりに終わるよう時間管理を徹底して行う必要があると考えられる。

塾運営に関することでは、就寝時間の徹底をしてほしいという意見が最も多かった。決められた就寝時間どおりに生活していた塾生と、そうでない塾生との差が大きかった。点呼後の就寝の指導を徹底して行うこと、時間を守らなかった場合の罰則を明確化するなど、次年度の改善に向けて取り組んでいきたい。

施設・設備面については、洗濯に関する事が多かった。洗濯する時間がなかなか確保できない塾生、乾燥機で完全に乾かす事ができず部屋で干している塾生が多かった。洗濯機・乾燥機の台数には限りがあるので、塾生達が生活面にかけられる時間を確保する方向で対策を講じる必要があると考える。食事に関しては、今年からサラダバーを設置した事もあり、メニュー内容への不満は少なかった。

他の塾生に関することでは、人間関係などよりも、他塾生の態度や生活マナーについての意見が主だった。前述した就寝時間の件以外にも、「講義中の居眠りについてもっと厳しく律して欲しい」などの意見が出ている。塾冒頭の段階で明確な生活指導を行うことも重要だが、選考の段階でも、何を目的としてリーダー塾に参加するのかをしっかりと確認する必要があると考える。

2. 第5回日本の次世代リーダー養成塾 受講者概要

受講者総数 160名 (男子65名・女子95名) 29都道府県及び5ヶ国

参画県枠 99名 (男子39名・女子60名)

1	岩手県	12名	(男子 4名)	(女子 8名)
2	山形県	6名	(男子 2名)	(女子 4名)
3	神奈川県	13名	(男子 2名)	(女子 11名)
4	岐阜県	12名	(男子 6名)	(女子 6名)
5	和歌山県	4名	(男子 3名)	(女子 1名)
6	福岡県	27名	(男子 12名)	(女子 15名)
7	佐賀県	12名	(男子 6名)	(女子 6名)
8	大分県	13名	(男子 4名)	(女子 9名)
計		99名	(男子 39名)	(女子 60名)

一般公募枠 61名 (男子26名・女子35名)

1	北海道	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
2	青森県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
3	福島県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
4	茨城県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
5	栃木県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
6	群馬県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
7	埼玉県	3名	(男子 2名)	(女子 1名)
8	千葉県	2名	(男子 1名)	(女子 1名)
9	東京都	12名	(男子 3名)	(女子 9名)
10	神奈川県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
11	福井県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
12	愛知県	4名	(男子 2名)	(女子 2名)
13	大阪府	2名	(男子 0名)	(女子 2名)
14	兵庫県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
15	岡山県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
16	広島県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
17	山口県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
18	愛媛県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
19	福岡県	7名	(男子 4名)	(女子 3名)
20	佐賀県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
21	熊本県	2名	(男子 1名)	(女子 1名)
22	大分県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
23	宮崎県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
24	鹿児島県	4名	(男子 3名)	(女子 1名)
25	沖縄県	2名	(男子 0名)	(女子 2名)
26	アメリカ	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
27	カナダ	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
28	中国	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
29	アイルランド	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
30	スイス	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
計		61名	(男子 26名)	(女子 35名)

3. 第5回日本の次世代リーダー養成塾 受講者高校一覧

学校所在地	学校名	学校所在地	学校名
北海道	北海道立札幌南高校 私立立命館慶祥高校	岡山	私立岡山白陵高校
青森	県立八戸高校	広島	広島大学附属高校
岩手	県立金ケ崎高校 県立盛岡第一高校 県立盛岡商業高校 県立釜石高校 県立久慈東高校 県立黒沢尻北高校 県立水沢高校 県立大野高校 県立福岡高校 県立平舘高校	山口	県立宇部高校
山形	県立山形西高校 県立新庄北高校 県立南陽高校 県立山形中央高校	愛媛	愛光高校
福島	私立東日本高等学院	福岡	県立大牟田北高校 県立宗像高校 県立修猷館高校 県立福岡高校 県立田川高校 県立春日高校 県立筑紫高校 県立筑紫丘高校 県立伝習館高校 県立東筑高校 県立光陵高校 県立明善高校 県立八女高校 県公立古賀高校
茨城	私立茨城キリスト教学園高校		私立福岡工業大学附属城東高校
栃木	県立宇都宮北高校		私立明光学園高校
群馬	私立共愛学園高校		私立久留米大学附設高校
埼玉	県立大宮高校 私立西武学園文理高校 私立早稲田大学本庄高等学院高校		私立敬愛高校 私立筑紫女学園高校 私立東海大学付属第五高校 私立泰星高校 福岡インターナショナル・スクール
千葉	私立千葉敬愛高校 私立市川高校		県立武雄高校 県立致遠館高校 県立伊万里高校 県立金立養護学校 県立高志館高校 私立東明館高校 私立弘学館高校
東京	私立桐朋女子高校 私立東洋英和女学院高等部 私立早稲田高校 国際基督教大学高校 私立淑徳高校 私立昭和女子大学附属昭和高校 自由学園高等科 私立鷗友学園女子高校	佐賀	県立熊本高校 県立多良木高校 県立大分西高校 県立国東高校 県立杵築高校 県立大分上野丘高校 県立大分舞鶴高校 県立別府羽室台高校 県立別府青山高校 私立大分東明高校 私立岩田高校 県立五ヶ瀬中等教育学校 県立鶴丸高校 県立徳之島高校 私立樟南第二高校 私立ラ・サール高校 県立開邦高校 県立北山高校
神奈川	県立横浜国際高校 県立神奈川総合高校 県立厚木高校 県立鎌倉高校 県立横浜緑ヶ丘高校 私立湘南白百合学園高校 私立洗足学園高校 私立函嶺白百合学園高校 私立横須賀学院高校	熊本	La Gruyere College international
福井	県立藤島高校	大分	上海アメリカンスクール
岐阜	県立岐阜農林高校 県立加茂高校 県立斐太高校 県立大垣北高校 県立岐阜工業高校 県立関高校 県立中津高校 私立岐阜女子高校 私立聖マリア女学院高校	宮崎	私立パークシャー高校
愛知	県立旭丘高校 私立南山国際高校	鹿児島	私立リドリーカレッジ高校
大阪	私立千里国際学園高等部	沖縄	ストラトフォードカレッジ
兵庫	私立小林聖心女子学院高校	スイス	
和歌山	県立那賀高校 私立智辯学園和歌山高校	中国	
		米国	
		カナダ	
		アイルランド	

4. クラス担任・補助員及びスタッフ名簿

(敬称略 所属五十音順)

【クラス担任】

A . A r c h i v e	吉本 平史
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	大崎 道吾
	藤森 浩一
キヤノン株式会社	亀川 滋郎
	高橋 恭子
特定非営利活動法人 九州・アジア経営塾	廣畑 亮人
九州電力株式会社	竹下 将史
株式会社資生堂	森 静香
住友信託銀行株式会社	岡田 賢悟
株式会社西日本新聞社	江藤 雅美
西日本鉄道株式会社	奥村 洋介
株式会社ふくや	吉村 拓二
株式会社フランソア	脇坂 温
株式会社ミス	溝上 泰興
三井住友海上火災保険株式会社	鈴木 麻理子
三井物産株式会社	木下 久美子
	土屋 浩之
三菱商事株式会社	宮坂 博
株式会社リクルート	城處 朋子

【クラス担任補助員】

大阪大学大学院	横田 季世子
北九州市立大学大学院	仲西 浩一
慶應義塾大学	北谷 圭太郎
	仲尾 千枝
国際基督教大学	有馬 典孝
昭和女子大学大学院	田中 綾紗
南山大学	林 暖奈
福岡教育大学	柴田 結子
	城尾 忠幸
早稲田大学	渡邊 貴大

【事務局補助スタッフ】

春日市役所	上野 志保
株式会社資生堂	桃井 康浩
慶應義塾大学	芦川 泰彰
	城間 健人
筑波大学	古賀 俊介
University of Central Oklahoma	村上 未沙紀

【事務局スタッフ】

日本の次世代リーダー養成塾事務局長	加藤 暁子
日本の次世代リーダー養成塾事務局員	相戸 和歌子
	伊藤 健治
	酒井 裕介

5 . ご協賛いただいた皆様とご協力いただいた皆様

(2 0 0 8 年 1 0 月 2 1 日 現在)

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。

ご協賛いただいた皆様

株式会社アステム

株式会社アトル

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

大竹 美喜

オリックス社会貢献基金

九州電力株式会社

株式会社九電工

九州旅客鉄道株式会社

キヤノン株式会社

国際ロータリー第 2 7 0 0 地区

西部瓦斯株式会社

佐賀県ヤクルト販売株式会社

株式会社サガテレビ

株式会社佐賀電算センター

株式会社サニックス

財団法人サニックススポーツ振興財団

株式会社資生堂

株式会社翔薬

株式会社伸良商事

住友信託銀行株式会社

高田工業株式会社
株式会社玉屋
株式会社戸上電機製作所
トヨタ自動車株式会社
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
久光製薬株式会社
株式会社福岡銀行
福岡地所株式会社
株式会社ふくや
富士ゼロックス株式会社
株式会社ミズ
株式会社三井住友銀行
三菱商事株式会社
株式会社三菱東京 UFJ 銀行
宗像大社
株式会社村岡屋
吉本 平史

財団法人福岡県市町村振興協会

敬称略
五十音順

ご協力いただいた皆様

財団法人アクロス福岡

株式会社 I N . C O M

特定非営利活動法人 九州・アジア経営塾

株式会社グローバルアリーナ

佐賀県波戸岬少年自然の家

佐賀県立名護屋城博物館

株式会社西日本新聞社

株式会社日本航空

日本アイ・ビー・エム株式会社

有限会社ビッグブラザーズ

株式会社フランソア

株式会社ホークスタウン

株式会社ホテル日航福岡

株式会社萬坊

三井住友海上火災保険株式会社

三井物産株式会社

株式会社リクルート

敬称略

五十音順

日本の次世代リーダー養成塾 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-5

アークヒルズエグゼクティブタワーS503号

TEL : 03-3505-0906

FAX : 03-3505-0907

ホームページ <http://www.leaderjuku.join-us.jp/>

メールアドレス info@leaderjuku.join-us.jp